

そう だい やくそく
総 題 「約束」

だいじゅうに か けいやく しんこう
第12課 契約の信仰

いとうひろし
伊藤裕史

いち あんそくにちごご
1. 安息日午後

せいしよ つみ しはら ほうしゅう し ろく にじゅうさん い わたし いま つみ くる
聖書は「罪が支払う報酬は死です。」(ロマ 6 : 2 3) と言っています。私たちは今、罪のために苦しん
でいますが、この 私たちの苦しみは罪のための支払いになっているのでしょうか。私たちが苦しむことで支払う
べきものが軽くなったりするのでしょうか。実は 私たちの苦しみは罪のための支払いにはなっていません。どんな
に苦しんでも、罪の支払いとは何のかかわりもないのです。今週 私たちは、この罪の支払いについて、誰がど
のように支払ったのかということについて学びます。

に にちようび おも えが
2. 日曜日：カルバリーを思い描く

だいじゅう か まな きゅうやくせいしよ じだい ひと しんやくせいしよ やくそく なか わたし すく しん
第10課で学んだように、旧約聖書の時代の人も、新約聖書の約束の中にいる 私たちも、救われるのは信
仰によってです。でも罪がどれだけ大変なものであるかを知らない人たちは、行いによって罪の支払いをしよう
とします。その人たちは、自分でよい行い、正しい行いをする事で罪の支払いができ、救われると思っていま
す。自分はすばらしい行いをしたのだから、神様は救ってくれると 考 えているのです。

しかし、これは間違いです。私たちはよい行い、正しい行いによって救いを手に入れることはできません。そ
のを知るためにキリストが十字架におかかりになったことを 考 えてください。なぜ神であったキリストは罪
人として血を流されたのでしょうか。私たちはそのことを完全には理解できないのかもしれませんが、でも、十字
架の場面を思うときに、罪がどれだけ大変なものなのか、そしてそこから救い出すためにどれだけ大きな犠牲が払
われたかが分かってくるはずです。だから 私たちの行いがどんなによくても、この罪の支払いにはできないのです。

さん げつようび けいやく ぎせい
3. 月曜日：契約と犠牲

では、どのように罪の支払いをするのでしょうか。聖書には「贖われた」という言葉があります。これはキリス
トの死によって支払いが行われ救われる、という意味です。聖書が「あなたがたが先祖伝来のむなしい生活から
贖われたのは、金や銀のような朽ち果てるものにはならず、きずや汚れのない小羊のようなキリストの 尊い血
によるのです。」(1ペトロ 1 : 1 8, 1 9) と言うように、「キリストの 尊い血」によって罪の支払いが行
われたのです。神であっても 尊いみ子キリストの血でなければ支払えなかったのです。それしか方法がなかったの
です。それほど罪は大きいものなのです。

しかし「キリストの^{とうと} ^ち ^{つみ} ^{しはら} 尊い血」は罪の支払いだけのものではありませんでした。私^{わたし} たち^{えいえん} に^{いのち} 永遠^{あた} の命^を 与えてくれるためでもあったのです。

4. 火曜日：アブラハムの信仰：その1

罪^{つみ} の^{しはら} 支払い^{とうと} を「キリストの^ち ^{くだ} ^{まな} 尊い血」によってして下さったことを学びました。しかし、それで十分^{じゅうぶん} なのでしょう^う か。そうではありません。私^{わたし} たちがそれを受け入れ、認め^{みと} なくては^か い^れ けないのです。「彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた」(創15:6 (新改訳)) という聖句は、アブラハムが神のなさを受け入れたこと。そしてアブラハムが受け入れたことを神が認めたことを示しています。はじめのアブラハムが受け入れたことはなんだったのでしょうか。それは神の約束が実現すること、自分にはそれを実現させる力がないこと、そして神が約束を実現させることに自分が従うことでした。

だから、アブラハムが認められたといっても、アブラハムが間違^{まちが} うことのない素晴らしい人^{すば} だったのでは^{ひと} ありません。アブラハムは自分にはそれを実現させる力がない弱^{よわ} さを知^し っていました。だから、間違^{まちが} ったときには、それを認め^{みと} 、神^{かみ} のもとに帰^{かえ} り、何^{なん} 度もやり直^{なお} したのです。神はそれを助^{かみ} けて^{たす} くださるのです。

5. 水曜日：アブラハムの信仰：その2

火曜日^{かようび} の^{かみ} ところで、アブラハムが神のなさを受け入れたこと、そしてアブラハムが受け入れたことを神が認めたことを学びました。では神が「認める」とはどういうことなのでしょう。このヘブライ語の「認める」とは「…と見^み なす」「^{てん} ^か 転嫁^い する」という意味をもっています。私^{わたし} たちが「キリストの^{とうと} ^ち ^{なが} 尊い血」が流されたのは自分のためだということを受け入れた時、神は私^{わたし} たちの罪^{つみ} の^{しはら} 支払い^{とうと} が「キリストの^ち ^{しはら} ^{みと} 尊い血」によって支払われたと認めて^み くださったのです。つまり私^{わたし} たちの罪^{つみ} がキリストに^{てん} ^か 転嫁^{つみ} され、罪^{つみ} の^{ほうしゅう} 報酬^{しはら} がキリストによって支払われたものと見^み なして^{しはら} くださったのです。このことによって神は、私^{かみ} たちが何^{わたし} も^{なに} 支払^{しはら} っていないにもかかわらず、支払ったものとあ^{しはら} つか^つ てくださいるのです。

しかし注^{ちゅう} 意^い しないで^{かみ} はいけません。神は罪^{つみ} の^{しはら} 支払い^{わたし} が^み すんだものと私^{わたし} たち^を 見^み て^{わたし} くださいますが、私^{わたし} たちは何^{なに} も^か 変^{かみ} わって^{わたし} いません。このままではまた神からはなれてしまうでしょう。私^{わたし} たちは「キリストの^{とうと} ^ち ^{ぎせい} 尊い血」という犠^{はら} 牲^{わす} が払われたことを忘^{かみ} れて^{した} はいけません。そして、神に^{かみ} 従^{した} ってい^か なくては^い けないのです。

6. 木曜日：約束の上に憩う

「罪^{つみ} が^{しはら} 支払^{ほうしゅう} う報酬^し は死^{しはら} です」この支払い^{わたし} は私^{いのち} たちの命^{いがい} 以外^{とうと} には「キリストの^ち ^{すく} 尊い血」の^{しはら} ほ^{すく} か^{すく} できません。あなた^く の^{おこ} 苦^い し^み も、よい^み 行^{こと} い^ば も^{しん} なん^う の^い 意味^う も^い ないのです。でもキリストはもうその支払い^{しはら} を^{すく} すま^{すく} せた、あなた^{すく} は救^{すく} われて^い いると^い 言^{こと} っ^ば て^{しん} くださ^う っているのです。皆^{みな} さんはこの言^{こと} ば^う を^い 信^う じ、^う 受^う け^い 入^い れ^{すく} ますか。受^う け^い 入^い れ^{すく} るのであ^{すく} れば、救^{すく} われたものとして歩^{あゆ} んで^{かみ} い^{まも} きましょう。神の守^{あゆ} りの^し うち^{まも} を歩^{あゆ} み(詩34:8 (口語訳7節))、平^{へい} 和^わ を得^え て(ロ^ご ^い ^ち ^{あゆ} マ5:1) 歩^{あゆ} み^{すく} ましょう。そして救^{すく} われたものとして、キリストと共^{とも} に歩^{あゆ} み(マ^{じゅう} ^い ^ち ^{さん} ^{じゅう} ^う ^ん ^{よん} ^{はち} ^{こう} ^ご ^{やく} ^な ^な ^せ ^つ ^{へい} ^わ ^え マ^ご ^い ^ち ^{あゆ} 11:30)、神に^{かみ} 従^{した} っ^か て^い きましょう(フィ^に ^な ^な ^{はち} ^{はち} 2:7, 8)。

なな きんようび けんきゅう
7. 金曜日：さらなる研究

わたし すすく て い ほうほう どうと ち しんこう う い
私たちが救いを手に入れる方法は、「キリストの尊い血」を信仰によって受け入れるしかありません。受け入
れるとは、ただ心で信じること、同意することではありません。だからその後の歩みには「行い」がともないま
す。しかし、これは救われるためにではなく、救われたから行うのです。同じ「行い」であっても、救われるた
めか、救われたからかでは、まったくちがうのです。救われた喜びをもって「行い」ならば、皆さんは聖化（キ
リストに似たものと）されていくでしょう。この喜びの道をキリスト再臨の日までいっしょに歩んでいきましょう。